



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
 宣教100～110周年標語
 감사의 백년, 소망의 백년
 感謝の百年、希望の百年
 (데살로니가전서 5:18)

発行所 福音新聞社 (1部100円)
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 ☎03-3202-5398
 発行人/趙重來・編集人/金柄鎬
 fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
 shinacho2003@daum.net (担当者)

< 2015年 感謝節説教 >

「あふれるばかりに感謝しなさい」

金 健牧師 (川崎教会、総会副書記)



「キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。」(コロサイ信徒への手紙2:7)

感謝節を迎える時期になりました。過ごしてきた日々を振り返りながら、この間私どもが主なる神から受けた多くの恵みを思い起こして、素朴な感謝を主に返したいと思います。

コロサイ書は、全体で4章しかない短いパウロの名による手紙ですが、そこには何度も「感謝」という言葉が出てきます。のみならず、聖書全体に感謝という言葉が繰り返し出てきているのはご存知のとおりです。時にしつこいくらい聖書が、読む人たちに対して「感謝」ということを喚起しているのは、それほど人間は感謝の思いを忘れやすいということなのでしょう。

ルカによる福音書17章に、こんなお話があります。イエスさまがある村を通ったときのことで、そこで10人の重い皮膚病を患っている人がイエスさまを出迎えて、「どうかわたしたちを憐れんでください」、つまり「この病気を治してください」と頼みます。イエスさまは彼らに対して、「祭司のところに行くように」とだけ言って送り出すと、彼ら全員は祭司のところに行く途中でその病が癒されました。するとその中の一人だけは、大きな声で神を讚美しながら、イエスさまのところへ帰ってきて、感謝の意を表したということです。それを見たイエス様はこう言います。「清くされたのは10人ではなかったか。ほかの9人はどこにいるのか。この外国人のほかに神を讚美するために戻ってきた者はいないのか」と。

想像ですが、イエスさまはここで「恵みを受けた人間たちがあまりにも感謝を知らない」、あるいは「いとも簡単にそれを忘れてしまう」、その現実に関心のない思いを持たれたのではないのでしょうか。そしてそれは他ならぬ私たちの姿でもあると考えます。そんな私たちだからこそ、今日のコロサイ書も「あなたがたはあふれるばかりに感謝しなさい」と強く勧めているのでしょう。

『地球がもし100cmの球だったら』(多分だいぶ前に出された『もし地球が100人の村だったら』の姉妹版です。こちらも読んで勉強になりました。)というタイトルの子ども向けに書かれた本があります。地球を、ぎゅーっと小さく縮めて直径100センチの玉として考えてみると、ということなのですが、そうすると地球を取り巻く空気層(成層圏やオゾン層は別)は約1ミリほどのしかないうす～い膜、海の水はビール瓶1本ぐらゐの量となり、氷河以外で飲める水として利用できるのは5cc、つまり小さなティースプーン1杯弱、などなど興味深いデータが紹介されています。ちなみに人間の大きさは平均で0.1ミクロンくらいだそうです。そんなふうにと考えると私たちの生活する地球は、豊かそうで実はそうでもないようです。

出エジプト時の「マナ」のように、万物を作られた神さまは、この地球に、そこで生きるものたちにとって、必要なものを必要な分だけ与えてくださっていると考えたほうが良さそうですね。そのことをわきまえない、つまり感謝を忘れてしまうとき、必要は欲望へと変わり、神さまが整えてくださった被造物の美しいバランスは崩れてしまう。現に感謝を忘れた人間たちによる環境破壊等はもはや危機的です。

創世記の天地創造のところを読むと、主なる神はご自身の喜びと栄光のために必要な被造物を造られました。そしてすべての命はその恵みの中で祝われて生きることが許されています。しかしそれは、人間が神の御心に従って生きるという霊的な生活形態の一つである「与えられている恵みへの感謝」を忘れないということが重要な約束事です。

「キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。」

私たちキリスト者は、失ってから恵みの大切さを知る愚かさではなく、大切なものが失われないように神さまの恵みを覚えて、感謝の信仰生活へと召し出されている者たちです。

<関西地方会> 堺教会 創立88周年を迎えて



<頭ヶ島(頭ヶじま)教会にて>

2017年、堺教会は創立90周年を迎えることになる。唯一の神さまを仰ぎ、宣教の課題を問いながらしっかりと歩む教会となることを目指して、今年に88周年の行事を行った。

9月中旬には、「信仰の原点を見つめて再出発」というテーマのもと、長崎五島列島・平戸巡礼を行った。この巡礼のために1年以上前から準備し、また京都、大阪北部、大阪、布施教会の信徒の皆様の温かい協力と参加を得て実施することができた。88年の歴史が自分たちだけのものではなく、各教会の祈りに支えられてきたことを、堺教会が再認識することにもなった。

日本の辺境の五島列島には、信仰を守るために逃げて来た、あるいは移り住んだ信仰者の証があり、迫害に屈しない魂の痕跡があった。願わくは、私たちも、困難と迫害に屈しない信仰を、いつでも、どこでも証して、神に栄光を帰する働きをなすキリスト者になりたい。

10月25日(主日)は、創立記念日である。午前礼拝では、金必順牧師が「共に川を渡る」(ヨシュア3:14~17)という題で説教した。午後は、先の巡礼をスライドで報告した。さらに、李恵慶・今泉憲一両執事によって、巡礼によって示された力強い証がなされた。

信徒は高齢化し、教会学校も青年会もない堺教会であるが、神さまはこの教会を用いようとされている。この確信をもって、皆様の祈りに支えられて歩みたいと願う。

(報告: 金必順牧師)

<関西地方会> 大阪北部教会 創立90周年・名誉長老推戴式

9月27日(主日)、大阪北部教会では、教会創立90周年記念式及び金石水長老の名誉長老推戴式が行われた。

記念礼拝は、趙永哲担任牧師の司会で、李正男名誉長老の祈禱後、聖歌隊が「主が建てられた教会」という曲で特別讃美をした。さらに、金榮植名誉牧師が「聞け、イスラエルよ。唯一の神主の戒めを」という題で説教した。引き続き、1992年から2014年まで22年間忠実に奉仕して来た金石水長老の名誉長老推戴式が行われた。趙永哲牧師による名誉長老の推戴辞と宣言と推戴牌贈呈後、金長老が答辞を述べた。



その後、90周年の記念式として、同教会の永年信者8名(基準:50年以上本教会に属し、80歳以上)に対する表彰式を行った。さらに、90周年記念の行事の一つであった同教会の納骨堂の完成に携わっていた「A3・デザイン(株)」一級建築士事務所代表取締役である柏木茂洋氏と「中秀石材店(株)」専務取締役である稲森清和氏に感謝牌を贈呈した。

祝いの時間には、総会代表として鄭然元牧師(大阪教会第49代総会長)、地方会代表として長金鐘賢牧師(浪速教会、関西地方会長)、本庄東二振興町会の会長石井英明氏(町内会代表)、さらに、同教会の第3代目の牧師であった故裴琪煥牧師の次女がそれぞれ祝辞を述べた。

祝賀会は、牟大盛長老と牧野順子執事の司会で進行され、これまで90年間大阪北部教会を守り、導いて下さった神さまがこれからも共にして下さることを切に祈りつつ、すべての感謝と栄光を神さまにささげた。

(報告: 趙永哲牧師)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル: 東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様~200名様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。
・スペースYホール: 200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種子どもクラス
・YMCA東京日本語学校【3ヶ月~2年、短期研修】

関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャング】

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025

*会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

<第 14 回 CCA 総会> 報告②

多様な礼拝とバイブルスタディ



5 日間にわたる総会のスケジュールは、朝の礼拝とバイブルスタディで始まり、夕べの祈りで締めくくられる。会議と講演がタイトに詰められた日程の中、文字通りエキュメニカルに、国も教派も文化も超えてともにささげる讃美、礼拝は大きな恵みであり、貴重な体験となった。

礼拝には日ごとのテーマがあり、それ沿った式文が準備されているのは当然だが、視覚的にも体感できるよう配慮されていた。たとえばある日のテーマは「教会の境界線を越えて」。ステージにはアジアを表現する菊や鶴などの装飾とともにイスラーム、ユダヤ教、陰陽など諸宗教のシンボルマークが配置されていた。99%以上のノンクリスチャンの中に生かされている私たちは、囲いの外の羊たちにどう接し導いていくのか、キリストのことが心に迫ってきた。

夕べの祈りは、忙しい一日の最後の貴重な静まりの時間で、潮風を感じながら野外でささげた「テゼの祈り」が忘れられない（テゼはフランスの男子修道院で、「テゼの祈り」は世界に広がっている）。フォーラムに参加して強い絆で結ばれた青年たちがリードし、ひざまずき、短い中にも豊かな瞑想のひとつときとなった。



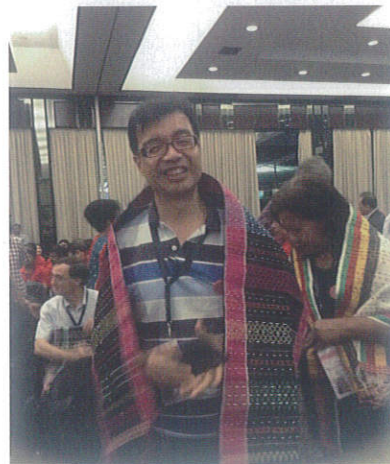
各集会にはインドネシアの教会から多数が参加し、民族衣装と舞踊、竹で作られた「アングルン」という民族楽器や現地の太鼓などを用いた讃美も披露された。面白かったのは、全員にお土産として、竹楽器が配布された時のこと。この楽器は一つが一音だけを奏で、全音が揃わないと演奏ができないという、まさにハーモニーの象徴だ。数分の練習を経て讃美歌を演奏すると、会衆一同興奮奮めやらず、いつまでもカラカラと振り続けるのだった。

さてバイブルスタディだが、こちらもテキストがあり、その日の聖書と黙想を読み、15 人前後のグループで分かち合う。最終日のテーマは創世記 2 章から「神の被造物を支える」。パプア、ミャンマー、オーストラリア、インドネシア、ドイツ、諸国からのメンバーそれぞれが環境破壊の現状と消費社会に生きることの矛盾に葛藤し、その中でも教会でいかにエコ活動を行うかに心を注ぐ様子を知ることができた。ミャンマーの教会では「環境主日」をもうけ、特に若い人への教育に目をむけ、環境問題に目を向けさせる礼拝式文と、具体的にエネルギーの現状や節約の方法などの展示を行うという。これは私たちもすぐに見習い実践できることではないだろうか。



主日礼拝は西パプア出身のルームメイトとともに、長老教会に出席。ちょうど聖霊降臨節だったが、受付と講壇にどっさり果物と野菜が飾られていて驚いた。旧約時代には夏の刈入を祝う収穫祭だったことに由来するのだが、食べきれないほどのバナナを幹ごといただいたことと合わせて、初めての経験でとても興味深かった。映画『ジーザス』を鑑賞し、子どもたち数名を講壇に招いて、説教の合間に親しく語りかけるスタイルはとてもほほえましく、伝統的な教会での新しい試み大きな刺激を受けた。

(報告：朴栄子)



* CCA : アジアキリスト教協議会。アジア 21 カ国 101 教会の教会協議会で、KCCJ も正式なメンバー。

<訂正とお詫び>

10 月号のタイトルが「ACC」になってますが、「CCA」に訂正し、お詫びいたします。

<在日大韓基督教会>

第53回 定期総会開催



10月11日(主日)～13日(火)、在日大韓基督教会第53回定期総会(以下、総会)が、「いのちと平和の神の幕屋をこの地に広げよう」(マタイ5:19)という主題で、大阪教会で開催された。

主日の午後7時から書記の李根秀牧師の司会で始まった開会礼拝は、総会長趙重來牧師が「わたしに学びなさい」(マタイ11:25～30)という題で説教した後、副総会長金性濟牧師の司会で聖餐式が執り行われた。特に、献金の時間には「第3回マイノリティー問題と宣教国際会議のため」に捧げられた。



会議の開会は、総代127名(牧師68、長老51、女性会8)であることを確認し、開会が宣言され2泊3日の定期総会日程に入った。会順採択に続き、運営委員の承認、新総代と今期に引退総代の紹介、元総会長、副総会長紹介、そして、来賓紹介がなされた。主な来賓は以下の通りである。

基督教大韓聖潔教会 総会長 柳東善牧師、総務 金珍鎬牧師、韓国基督教長老会 総会長 崔扶玉牧師、大韓イエス教長老会(統合) 総会長 蔡永南牧師、美国合同監理教会 世界宣教部(GBGM) 韓人牧会協議会 事務総長 張学淳牧師、Czech 兄弟改革教団 李鍾実牧師。前回定期総会会議録が承認されて一日目の会議が終わった。

二日目は、「召天者追悼礼拝」後、早速選挙に入った。その結果、総会長 金性濟牧師(名古屋)、副総会長 金必順牧師(堺)、尹聖哲長老(神戸)が選出された。その他の役員や委員長は次の通りである。

書記:趙永哲牧師、副書記:金健牧師、会計:金成元長老、宣教委員長:鄭然元牧師、教育委員長:金明均牧師、社会委員長:鄭守煥牧師、神学考試委員長:金武士牧師、信徒委員長:金迅野牧師、憲法委員長:中江洋一牧師、年金委員長:金秀男長老、讃頌歌委員長:韓澤柱牧師、監査:梁昌熙長老。

引き続き、金武士牧師の司会で「旧・新任職員交替式」が行われ、議長が金性濟新総会長に交代された。その後、各委員会の委員が発表された。さらに、分科会の案内に続き、各委員会と各機関の報告に進んだ。

今回の定期総会では、6つの分団に分かれて分科会が行われ、夕食後は、分科会で議論した内容を発表して一同が共有し、それを基にして各委員会の会議をしてから、二日目の日程が終わった。



<第53回総会期役員>

三日目は、敬虔会から始まり、議事に入って各委員会の活動計画の報告と質疑討議がなされた。二日目と三日目にかけて決議された主な献議案は、「総会機構改革特別委員会」の設置が承認され、委員長に李根秀牧師が推薦された。

また、宣教100周年の時に計画していた「マイノリティー宣教センター」設立準備委員会設置が承認され、委員会の構成は常任委員会と総幹事に一任された。その他憲法と規則、細則などの変更の承認、KCC、RAIK、西南KCC、在日総会神学校の理事が承認された。

最後に、予算が承認され、「安保法制の撤廃を求める声明文」発表、報告書審査委員報告に続き、次期の総会の会場と時については常任委員会に委任することにして閉会礼拝に移った。

金性濟総会長の説教と閉会宣言によって閉会された。

(報告:編集部)